

社会福祉啓発講座 「ヤングケアラーのためにできること」

社会福祉法人 品川総合福祉センター
〒140-0003 東京都品川区八潮 5-1-1

助成事業の概要

目的:「高齢者」「障害者」「児童」の枠にとどまらず、すべての人の幸せのために、社会的なニーズに目を向け、正しい理解を促進し、認知度を高め、地域における支え合いへつなげることを目的に啓発講座を実施する。

内容 (1): 品川区内中学校での福祉講座

・教員向けミニ講座: ヤングケアラーについて事前に教員より質問受け、講師が質問に回答・ミニ講座でレクチャー。

・8 年生と地域住民が学ぶ福祉講座

講師の講演の後、生徒と地域住民がグループワークで学ぶ。

内容 (2): 区民向け福祉啓発講座

幅広い区民の理解に向けた啓発の機会は少ないため、今回はヤングケアラーの現状と思いを理解し、知ることからできることを考える。今後に繋げるきっかけとなるよう、実際に支援の機会を広げている実例を学ぶ。

令和 6 年 2 月 17 日 (土) 14 時から 16 時半

会場: 品川区大井町きゅりあん

第一部 ~ヤングケアラーに光を~

講演講師: 町 亞聖氏 (フリーアナウンサー・元ヤングケアラー)

講演テーマ: 「ヤングケアラーに光を~十八歳からの十年介護~」

第二部 ~学習支援を入り口にしたヤングケアラー支援~

講演講師: 土屋 匠宇三氏

(一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネット

ワーク理事)

講演テーマ: 「ヤングケアラーの実態とその支援 ~学習支援 13 年で子供たちから学んだこと~」

事業の成果

(1) 品川区内中学校での福祉講座 (教員向けミニ講座、8 年生と地域住民が学ぶ福祉講座)

子どもに近い現場の学校や教員が学校業務の忙しさ等で、ヤングケアラーに関して現状が把握しにくい状況があった。当センター地域福祉課では、地域の課題やニーズについて、子どもたちへの福祉教育の機会を定期的に設けている実績を活かし、共に学ぶ機会を地域の学校に提案。積極的にヤングケアラーの課題に向き合いたいという中学校の校長先生の想いと合致し、実現した。

○教員向けミニ講座: 事前に教員からの「ヤングケアラー」についての質問に、元ヤングケアラーの講師が回答書を配布。更にミニ講義で 55 名の教員の理解を進める機会が作れたことは、教員のリアルな疑問に即時回答し、すぐに実践に移せる機会にもつながり、有益な時間となったと感想をいただいた。時間が多く取れなかったことが課題である。

○福祉講座: 学校と PTA、区の子ども家庭支援センターの協力を得て、生徒と地域住民がグループワークを実施。

8 学年生の 88 名の生徒と地域の大人約 20 名 (PTA 役員、地域の児童委員、青少年対策委員、町会長、保育園園長、福祉関係者等) が、意見交換し学び合うことで、地域の課題を共有、次に何

をするべきかというヒントを得、生徒の理解が深まったという感想をいただいた。

(2) 区民向け福祉啓発講座

幅広い区民に向けたヤングケアラー啓発講座の機会がまだ少ない中、今回はヤングケアラーの現状と意思を理解し、実際に子どもの支援の機会を広げている事例を学ぶ講座を実施。

会場参加と WEB 参加の同時開催、当日は 86 名が参加。

困った時に誰かを頼る受援力の大切さはお二人が語られた。

「困りごとを言語化することの難しさを理解しておこう。」「子どもたちが、夢をあきらめないよう、必要なタイミングで必要な支援が大切だとわかった。」

「子どもの願いを中心に支援を考えることの重要性を学んだ。」

「まずは子どもの身近な、“信頼される大人”になることというヒントをいただいた。」「実践者お二人のお話は大変分かりやすく心を打つ内容で、勉強になった。」「感動した。」「言葉だけ知っていたが、知ることができて心持が大分よくなった。」など参加者の感想をいただいた。

今年度は区民や地域に呼び掛けることができ、昨年よりも広い対象約 250 名の参加者からも、関心が高まっているのを感じている。参加できなかった区内の関係者・保護者・学校 PTA 役員等からも再企画を願う声が届いている。今回は教育機関の理解があり、当事者に近い中学生から高齢者までの幅広い区民と学び合うことができたのも、この助成事業のおかげである。

成果の広報・公表

・品川区のケーブル TV での当日取材を経て、当日の様子をしながわケーブル TV で、3 月 9 日～12 日放送。

その後は「わ！しながわニュース」の YouTube チャンネルで放送中。

・品川区ホームページ「2024 年しながわ写真ニュース」2 月 17 日付で紹介中。

・社会福祉法人品川総合福祉センター法人広報誌令和 6 年度 4 月 1 日号に実施報告、掲載予定。

1900 部を配布（区長始め品川区関係各課、品川区議会議員、区内関係機関各所長、区内学校関係、福祉関係機関、ボランティア、NPO、地域町会自治会長、施設ご利用者・ご家族等）

・社会福祉法人品川総合福祉センターホームページで紹介。

・品川区・品川区社会福祉協議会へ実施報告。

・法人内理事会、地域関係者会議等で報告。

今後の展開

「ヤングケアラー」について、名称は聞いたことはあるが、よくわからないという関係者が多かった令和 4 年に区民向けの講座の第 1 回目を行った。令和 5 年度の区民向け講座開催は第 2 回目。

区や都で、専門職向けのヤングケアラー講座や研修の開催が増え、関係者間では、ケアマネ中心に理解が広まっているが、区民の理解にはまだまだ課題がある。一番子どもに近い地域区民の理解や気づきが大きな支えになることを考えると、区民向けの啓発は、非常に重要だと考えている。今回も広く PR し、多くの方の参加に繋がり、理解を深めることができた。

今年、理解を進める対象者が、中学生から大人、高齢者までとなり、この幅広い取り組みが実現できたのも、助成いただいたおかげであり、心から感謝している。

確実に理解者は増えているが、課題は奥深く、時間をかけて啓発活動は継続していくことが必要だと考えている。

「ヤングケアラー」を取り巻く現状は、子どもだけではなく、家族の問題も大きく影響する。

その家族は、我々が常に向き合っている福祉支援の対象者として、支援すべき対象者でもある。まだ支援の手が届いていない中で、子どもの声や願いを中心にどう支えていくかが大きな課題である。今回の講師の講演で、子どもをどう支えるかのヒントを得ることができた。地域の声、子どもの声を聞きながら、地域とのつながりやネットワークを活かし、できることを検討している。